

登録コード	E4255901	開講年度	2026				
授業科目	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法B					担当教員	佐藤 和紀
英文授業名	Theories and methods of education using information and communication technology					副担当	
単位数	1	講義期間	後期(後半)	曜日・時限	金曜・1時限		対象学生
講義室	教育図書 2 階講義室			授業形態	講義	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	・教育現場におけるデジタル学習基盤の活用について，その歴史的経緯，現状，今後の方向性を理解する ・授業における児童生徒および教員によるデジタル学習基盤の活用の他，授業の準備，学習評価に関する活用，校務における活用や教育データの活用を理解する ・情報社会を生きていくための資質・能力である情報活用能力について，その構成要素および具体的な指導法，教育課程上の位置づけについて理解する						
(5)授業計画	第 1 回 オリエンテーション，情報活用能力の重要性について知る（教科書1－3章） 第 2 回 児童生徒のデジタル学習基盤の活用を知る（教科書6，10－13章） 第 3 回 探究的・問題解決における情報活用を知る（教科書14 章） 第 4 回 児童生徒の生成AIの利活用について知る（教科書17－21 章） 第 5 回 学校教育における生成AIを体験する（教科書4，7章） 第 6 回 学校教育における生成AIの利活用を知る（教科書9 章） 第 7 回 小学校プログラミングについて知る（教科書5，7，8章）						
(6)成績評価の方法	・各回の授業に関する課題（50％），最終提出物（50％） ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90％以上 秀，89-80％ 優，79-70％ 良，69-60％ 可，59％以下 不可。						
(7)成績評価の基準	「卓越している」：デジタル学習基盤や情報活用能力に関する理解が，本授業での学習内容を多面的・総合的に取り入れていてさらに独自に調査した内容を極めて効果的に加えていて卓越している。 「かなり上である」：デジタル学習基盤や情報活用能力に関する理解が，本授業での学習内容を多面的に取り入れていてさらに独自に調査した内容を効果的に加えていてかなり上である。 「やや上にある」：デジタル学習基盤や情報活用能力に関する理解が，本授業での学習内容を取り入れていてさらに独自に調査した内容を加えていてやや上にある。 「水準にある」：デジタル学習基盤や情報活用能力に関する理解が，本授業での学習内容を取り入れていて水準にある。						
(8)事前事後学習の内容	・事前事後学習のために，eALPS等LMS上を活用して授業を展開していく。 ・事前学習：教科書の該当する箇所の確認をし、問題意識を明確にしたうえで事前レポートを書いた上で授業に参画する。 ・事後レポートを提出する。						
(9)履修上の注意	・各回の授業の前後にeALPS等LMS上にアクセスして事前事後学習に努めること。 ・各回の授業後にeALPS等LMS上で意見交換をすること。						
(10)質問，相談への対応及び連絡先	・教育学部附属次世代型学び研究開発センター2F 佐藤和紀研究室 E-mail：sato_kazunori@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：（前期）メール予約で随時対応 （後期）メール予約で随時対応						
【教科書】	ICT活用の理論と実践：DX時代の教師をめざして，稲垣忠・佐藤和紀，北大路書房，2200円						
【参考文献】	中央教育審議会 > 初等中等教育分科会 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/index.htm						